

平成 22 年 4 月 20 日現在

研究種目：基盤研究 (B)
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19330147
 研究課題名 (和文) 若者の仮想的有能感に関する総合的研究—特に形成要因と問題行動に着目して
 研究課題名 (英文) The synthetic study on assumed competence in youths : Focusing on it's building factors and problem behaviors.
 研究代表者
 速水 敏彦 (HAYAMIZU TOSHIHIKO)
 名古屋大学・教育発達科学研究科・教授
 研究者番号：20116172

研究成果の概要 (和文) : 仮想的有能感の形成要因としての文化的要因、友人関係、親子関係ととりあげ、検討した。特に文化的要因に関しては日本の若者と、諸外国の若者とを比較した。個人主義傾向の強い、アメリカ、カナダなどでは仮想的有能感も自尊感情も日本よりも高かった。さらに問題行動との関係では仮想的有能感が高いと学級で友人に助けを求めないこと、いじめの加害者にも被害者にもなりやすいこと、非行少年に仮定型が多いことも明らかにされた。

研究成果の概要 (英文) : At first, as factors building assumed competence, culture and interpersonal relationships were examined. Concerning cultural factor, assumed competences of Japanese youths were compared with those of some foreign youths. As a result, American and Canadian youths showed higher assumed competence and self-esteem than Japanese youths. Secondly, with regard to problem behaviors, the young who have high assumed competence were less likely to require classmates academic help, while they were more likely to become not only victims but also assailants of bully. Furthermore, it was revealed that most of juvenile delinquents belong to the type with high assumed competence and low self-esteem.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
2008 年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
2009 年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
年度			
年度			
総計	12,300,000	3,690,000	15,990,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード：仮想的有能感、自尊感情、問題行動、形成要因

1. 研究開始当初の背景 前にも仮想的有能感の研究は基盤研究(C)で行っていたが、2006年に講談社現代新書として出版した「他人を見下す若者たち」がベストセラーとなった。その本ではまだ仮説として書いた部分も

あり、十分立証する必要性を感じたため。

2. 研究の目的 主に仮想的有能感の形成要因と問題行動について検討することを目的とする。前者の形成要因としては文化的要因

(相互依存的文化か相互独立的文化か)、家族要因(家族関係、親の養育態度)、さらにはクラス内のコミュニケーション要因、IT要因などの影響を検討する。問題行動としてはいじめ、非行、就職活動などに焦点をあて、仮想的有能感の有無による相違を検討する。

3. 研究の方法

主に質問紙法を用いている。だが部分的には面接法なども用いている。

4. 研究成果

(1) 比較文化的研究に関しては個人主義傾向の強い(相互独立的傾向の強い)アメリカ、カナダの学生の方が日本の学生よりも仮想的有能感が高かった。また、自尊感情も彼らの方が高く、いわゆる全能型と呼ばれる人が多いことがわかった。韓国の学生についても日本の学生よりは全能型が多かった。仮想的有能感は日本の若者だけの問題でないことがわかった。

(2) 能力別学級編成が仮想的有能感に与える影響についてシンガポールで調査を実施して、低いクラスに所属する生徒が仮想的有能感が高まることを明らかにした。これは劣等感が仮想的有能感に反映することを意味していよう。

(3) 人間関係については仮想的有能感の高い者は概して親密な友人が少なく、学習場面でも友人から援助を求めたり、友人に求められたりしない傾向がみられた。また、家族関係については仮想型の家族関係は凝集表出性(感情を直接的に表現するのを許容し促す程度)が低く、葛藤性が高いことが示された。さらに親子関係については仮想型の生徒の親の養育行動は受容的でなく、統制的な行動であった。

(4) いじめという問題行動に仮想的有能感が関係しているかについて調査したところ、いじめの加害者も被害者も仮想的有能感が高いことが見出された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

- 1 植村善太郎 キャリア教育科目受講前後での勤労観および仮想的有能感の変化 教育実践研究(福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター) 第18巻 213-216. 2010 査読無
- 2 高木邦子 専門職養成課程の職業的社会

化における現場実習経験の効果2—自尊感情および他者軽視傾向との関連について 聖隷クリストファー大学社会福祉学部紀要 第8巻 83-95. 2010 査読無

- 3 松本麻友子、山本将士、速水敏彦 高校生における仮想的有能感といじめとの関連 教育心理学研究 第57巻 4号 432-441. 2009 査読有
- 4 小塩真司、西野拓朗、速水敏彦 潜在的・顕在的自尊感情と仮想的有能感の関連 パーソナリティ研究 第17巻 3号 250-260. 2009 査読有
- 5 伊田勝憲 エリクソンの第IV段階"industry" 再考—劣等感と仮想的有能感の関係から— 心理科学 第30巻 31-43. 2009 査読有
- 6 久木山健一 仲間の遊びからの学びと社会的スキル、自尊感情、仮想的有能感の関連 九州産業大学国際文化学部紀要 第40巻 127-135. 2008 査読無
- 7 小平英志、青木直子、松岡弥玲、速水敏彦 高校生における仮想的有能感と学業に関するコミュニケーション 心理学研究 第79巻 第3号 257-262. 2008 査読有
- 8 伊田勝憲 エリクソンの第IV段階「勤勉性」と第V段階「アイデンティティ」—児童期から青年期への移行と仮想的有能感— 心理科学 第28巻 28-40. 2008 査読有
- 9 小平英志、小塩真司、速水敏彦 仮想的有能感と日常の対人関係によって生起する感情経験—抑鬱感情と敵意感情のレベルと変動性に注目して— パーソナリティ研究 第15巻 2号

217-227 2007 査読有

- 10 Hayamizu Toshihiko, Kino Kazuyo&Takagi Kuniko. Effects of age and competence type on the emotions: Focusing on sadness and anger. *Japanese Psychological Research Vol.49*, No.3, 211-221 2007 査読有

[学会発表] (計 25 件)

- 1 植村善太郎 キャリア教育科目受講前後での勤労観および仮想的有能感の変化 日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミックス学会第56回大会合同大会発表論文集, 828-829. 2009. 10. 11. 大阪大学
- 2 木野和代・速水敏彦 仮想的有能感の形成と文化的要因 —大学生を対象に— 日本教育心理学会第51回大会発表論文集, 26. 2009. 9. 20. 静岡大学
- 3 小平英志・速水敏彦 仮想的有能感と社会観 日本心理学会第73回大会発表論文集, 46. 2009. 8. 27. 立命館大学
- 4 高木邦子 仮想的有能感尺度 (ACS-2) における他者評価 日本心理学会第73回大会発表論文集, 23. 2009. 8. 26. 立命館大学
- 5 Takagi, K. & Niwa, T. Reexamination of content validity of ACS-2 (Assumed Competence Scale 2nd version), *Poster presented at the annual meeting of the Association for Research in Personality*, 2009. 7. 17. Hotel Orrington, Evanstone, Illinois, U. S. A.
- 6 Tan, E. H., Kino, K., & Hayamizu, T. Effects of Streaming System in Singapore on Competence Types; Assumed-Competence Based on

Undervaluing Others Abstract of Redesigning Pedagogy International Conference 48-49. 2009. 6. 2.

Nanyang Executive Center, Nanyang Technological University (NTU), Singapore.

- 7 Oshio, A., Kukiyama, K., & Kodaira, H. Description of people who undervalue others based on Big Five Personality. *Poster presented at the 10th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology*, 2009. 2. 6. Tampa Convention Center, Tampa, Florida, U. S. A.
- 8 伊田勝憲 仮想的有能感と生活価値観の関連 —他者との関係性に注目して— 日本パーソナリティ心理学会第17回大会発表論文集, 72-73. 2008. 11. 5 お茶の水女子大学
- 9 安藤史高・高木邦子 大学生の友人関係における消極的關係維持(2) 日本社会心理学会第49回大会発表論文集 562-563. 2008. 11. 3 かがしま県民交流センター
- 10 伊田勝憲 高校生における仮想的有能感の検討 —第IV段階・第V段階および2つの達成動機に注目して— 日本教育心理学会第50回大会発表論文集, 248. 2008. 10. 11. 東京学芸大学
- 11 松本麻友子・速水敏彦・山本将士 仮想的有能感と対人関係との関係(1) —仮想的有能感の変化に及ぼす要因の検討— 日本教育心理学会第50回大会発表論文集, 246. 2008. 10. 11 東京学芸大学
- 12 木野和代・速水敏彦・岡田 涼 仮想的有能感の形成と文化的要因 —中学生を対象に— 日本教育心理学会第50回

- 大会発表論文集, 245. 2008. 10. 11. 東京学芸大学
- 13 山本将士・速水敏彦・松本麻友子 仮想的有能感と対人関係との関係(2) — 仮想的有能感の低下と教師のかかわり方— 日本教育心理学会第50回大会発表論文集, 247. 2008. 10. 11. 東京学芸大学
- 14 丹羽智美・高木邦子・速水敏彦 2008 仮想的有能感と対人関係(2) —他者軽視傾向と対人葛藤場面における原因帰属との関連— 日本心理学会第72回大会発表論文集, 37. 2008. 9. 20 北海道大学
- 15 高木邦子・丹羽智美・速水敏彦 仮想的有能感と対人関係(1) —他者軽視傾向と対人感情の変容— 日本心理学会第72回大会発表論文集, 36. 2008. 9. 20. 北海道大学
- 16 伊田勝憲 仮想的有能感と学習への動機づけ 第IV段階・第V段階と課題価値の観点から 日本発達心理学会第19回大会発表論文集, 521. 2008. 3. 20 大阪国際会議場
- 17 Oshio, A., Kodaira, H., & Kukiyama, K.
Do members undervaluing others contribute to group activities?
Poster presented at the 9th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, .
2008. 2. 8. Albuquerque Convention Center, Albuquerque, New Mexico U. S. A.
- 18 高木邦子 仮想的有能感と自己評価 —自己評価維持モデルからの検討— 日本社会心理学会第48回大会発表論文集, 688. 2007. 9. 23. 早稲田大学
- 19 丹羽智美・速水敏彦 有能感の4タイプと愛着スタイルの関連 日本心理学会第71回大会発表論文集, 62. 2007. 9. 19. 東洋大学
- 20 速水敏彦・岡田 涼・杉江修治 有能感タイプと学業に関するコミュニケーション 日本教育心理学会第49回大会発表論文集, 552. 2007. 9. 17 文教大学
- 21 伊田勝憲・仮想的有能感の規定因 — “assumed-competence” は「見せかけの適格性」か— 日本教育心理学会第49回大会発表論文集, 341. 2007. 9. 16 文教大学
- 22 山本将士・速水敏彦・松本麻友子 仮想的有能感からみた高校生の問題行動 日本教育心理学会第49回大会発表論文集, 342. 2007. 9. 16. 文教大学
- 23 伊田勝憲 仮想的有能感と2つの達成動機 “assumed-competence” の個人差をめぐって 日本パーソナリティ心理学会第16回大会発表論文集 158-159. 2007. 8. 26 帯広畜産大学
- 24 松本麻友子・速水敏彦・山本将士 高校生における仮想的有能感と問題行動 —一部活動に着目して— パーソナリティ心理学会第16回大会発表論文集, 162-163. 2007. 8. 26. 帯広畜産大学
- 25 西野拓朗・小塩真司・速水敏彦 仮想的有能感と潜在的自尊感情の関連について 東海心理学会第56回大会発表論文集, 55. 2007. 5. 19. 中部大学
6. 研究組織
(1) 研究代表者
速水敏彦 (HAYAMIZU TOSHIHIKO)
名古屋大学・大学院教育発達科学研究科・教授
研究者番号: 20116172

(2)研究分担者

小塩真司 (OSHIO ATSUSHI)
中部大学・人文学部・准教授
研究者番号：60343654
木野和代 (KINO KAZUYO)
宮城学院女子大学・学芸学部・准教授
研究者番号：30389093
久木山健一 (KUKIYAMA KENICHI)
九州産業大学・国際文化学部・准教授
研究者番号：10387590
小平英志 (KODAIRA HIDESHI)
日本福祉大学・子ども発達学部・准教授
研究者番号：00442228
植村善太郎 (UEMURA ZENTARO)
福岡教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：20340367
伊田勝憲 (IDA KATSUNORI)
北海道教育大学(釧路校)・教育学部・准教授
研究者番号：20399033
高木邦子 (TAKAGI KUNIKO)
聖隷クリストファー大学・社会福祉学部・助教
研究者番号：00447864

(3)連携研究者

高井次郎 (TAKAI JIRO)
名古屋大学・大学院教育発達科学研究科・教授
研究者番号：00254269
河野荘子 (KONO SHOKO)
名古屋大学・大学院教育発達科学研究科・准教授
研究者番号：00313924
丹羽智美 (NIWA TOMOMI)
名古屋大学・大学院教育発達科学研究科・大学院研究生
松本麻友子 (MATSUMOTO MAYUKO)
名古屋大学・大学院教育発達科学研究科・大学院博士課程 D3
岡田涼 (OKADA RYO)
日本学術振興会・名古屋大学大学院教育発達科学研究科
杉本英晴 (SUGIMOTO HIDEHARU)
早稲田大学・人間科学学術院・助手
松岡弥玲 (MATSUOKA MIREI)
中京大学現代社会学部
日本障害者リハビリテーション協会嘱託
リサーチレジデント
山本将士 (YAMAMOTO MASASHI)
大谷高校・教員
TAN ENG HAI
南洋理工大学国立教育学院 (シンガポ

ル)・講師

朴香俄
慶南大学師範大学幼児教育科 (韓国)・教授